

善光寺境内東公園へ撮影のために移動。本堂と新緑をバックに一人ずつ記念撮影、皆さん素敵でした。撮影が済んだ方から大本願へ。



これまでも「花遊歩」の締めくくりとして何度かご登場願った大本願住職・鷹司誓玉尼公上人の今回のお話は一ご自身の幼きころのと母上の愛用の着物・帯を表装した二曲一双の「小袖屏風」を見せてくださりつつ、「誰が袖屏風」「小袖屏風」とは/日本文化を継承する意義/ものを大切にすることの尊さ・・・と「花遊歩」参加者=着物好きにとって興味深く良いお話でした。



### ワークショップ

今日一日のイベントについてグループに分かれて意見を交わした後、各グループ司会役の花遊歩および信州きものデーNUPRIスタッフが参加者の意見を発表：「イベント内容が多過ぎて疲れた」「とてもよかったが、一日で長野須坂往復は大変だった」「遠くから参加する者にとっては着替えの所や駐車場サービスがほしかった」「女性に限定しないほうがいいのではないか」「善光寺にまつわるイベントなのだから精進料理や宿坊を体験したいor紹介してほしい」。上田から参加した「なごみ会(きものを普及させる会)」代表から「上田で観光客への着物レンタルと着付けサービスをしている。長野でもやりたいのでボランティアを募集」。首都圏からのグループは「どんな天気であっても着物で平気。昔の日本人は家事をするのもどこへ行くにも着物だったのだから」。他の着物イベントで知り合って、ネットで花遊歩情報を得て参加した方・ほかの方からも「もっとPRすべきだ」の意見が多く出ました。また、初回から参加しているという方、去年参加してみてもよかったから友人にも声をかけたという方々もいて当イベントの定着を感じたことでした。



次回もたくさんの方の参加をお待ちしています。

### 「門前まち花遊歩」の5年

第1回	2012年 9月1日(土)	55名	円乗院にて精進料理/界限街歩き
第2回	2013年10月6日(日)	68名	大勧進にて精進料理/大本願雅楽
第3回	2014年10月5日(日)	54名	「善光寺表参道秋まつり」にあわせて
第4回	2015年 4月4日(土)	67名	「御開帳」にあわせ「日本一の門前町大緑日」のパレード先頭/玉照院にて精進料理
第5回	2016年 5月4日(祝)	58名	信州きものデー(須坂⇄長野) 同時開催

**NUPRI**  
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人 長野都市経営研究所

〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166 www.nupri.or.jp e-mail:nupri@nupri.or.jp



### 第五回

# 門前まち花遊歩

牛に引かれて善光寺参り

report

同時開催「信州きものデー」

長野のまちづくり団体、NUPRI長野都市経営研究所が2012年より始め、5回目という節目の「門前まち花遊歩」は、着物での街歩きを呼びかける「信州きものデー(信州着物の似合うまちネット共催)」を同時開催し、長野電鉄にて長野・須坂両市を周遊するスペシャル版で行いました。



- 開催日 2016年5月4日(水)
- 参加者 58名
- 門前まち花遊歩:主催/NPO法人NUPRI 長野都市経営研究所  
後援/長野市、善光寺、長野商工会議所、中央通り活性化連絡協議会
- 信州きものDAY:主催/信州きものデー実行委員会  
[構成団体]  
長野電鉄株式会社、信州着物の似合うまちネット、  
NPO法人NUPRI 長野都市経営研究所、  
(一財)須坂文化振興事業団 須坂クラシック美術館  
長野県 地域発 元気づくり支援金活用事業



### 移動型着物イベント 「信州きものデー」

着物というツールを通して賑わいの街づくりを図ろうと始まった「門前まち花遊歩」、今年は「善光寺花回廊」(5/3~5/5)にあわせての5月4日開催となりました。花遊歩も回を重ねて5回目という記念年であることから、当初からの展望(着物の似合う街々とネットワークでつなぎ、互い地域を盛り上げる)を実行に移すべく検討を重ねた結果、かねてより着物イベントを行っている須坂市と提携し、今までにない移動型着物イベント「信州きものデー」を催すこととしました。[4月12日実行委員長の鈴木隆治NUPRI事務局次長と須坂クラシック美術館学芸員の外谷育美さんが長野県庁にてメディア発表]

### 「須坂きものプチ旅切符」で須坂へ

5月4日朝、須坂を目指して長野電鉄に乗るころには雨も上がり、晴天。車内にはイベント参加者が着物姿の女性たちがチラホラおり、履物・着物を雨仕様にした、暑くなるらしいから単衣にしたなどの話が聞こえてくるなか、電車は地下から地上へ。車窓の向こうには陽の光を浴びた葉桜・新緑がまぶしく走り去り、ゆったりと流れる千曲川にかかる村山橋を渡ると、じきに須坂駅に到着したのです。

イベント申込者には前もってNUPRIから花遊歩パンフや信州きものデー「須坂きものプチ旅切符」「駅から着物でプチ旅マップ」が郵送されていました。旅切符にて改札を通り、マップを手に駅を降り立つも須坂の町には不案内…そんな参加者たちを角々に立つ和装男性(実行委メンバー)が目的の街並みへサポートしました。



「信州きものデー」実行委は須坂クラシック美術館入場料(300円)と長野電鉄長野〜須坂間往復運賃(1,080円)を含む「須坂きものプチ切符」を800円で、花遊歩の参加者には他のサービス込千円で販売

### 須坂の着物イベント

蚕糸・製糸業で栄えた須坂は昭和60年代から「蔵のまち」として歴史的街並みを整備して活性化・観光客誘致を図り、その一環として旧商家を修復開館したのが大正昭和の着物コレクションを展示している「須坂クラシック美術館」です。数年前より春秋の土用に行われるようになった



須坂クラシック美術館  
屋敷内で虫干しする着物



「大虫干し会」は遠くから毎年訪れる人もいるほどに定着。今回も多くの人々が座敷に吊るされた50着ほどの色鮮やかな着物を見て回り、互いにシャッターを押し合っていました。10人超で後姿の記念撮影をしていた女性の一人に尋ねると首都圏からの来訪、着物を着て出かける同好の士で、自分は初めてだが昨年来たメンバーに誘われたとのこと。(次は善光寺に回る、と仰って「花遊歩」参加者と判明。)大正から昭和初期に流行ったという銘仙着物の柄と色使いの妙は驚くばかりです。同館では岡コレクション銘仙の復刻にも力を入れており、秩父に注文して復刻した銘仙を実際に着てもらおうと着用者を募り、蔵のまちを歩いてもらっていました(今回初)。

「信州きものデー」にあわせて「蔵のまち観光交流センター」および駐車場にて「きものフリマ」(写真下)も開かれました(こちら初)。イベント参加者、ネットで知ったという人、たまたま入ったという観光客がお買い得品を求め、手作り品コーナーでは綿(地元で種を蒔いて栽培)に興味をもって話し込む人も見られました。

各人時間の許す限り須坂の町を歩いた後、再び長野電鉄の車中の人に。



きものがよく似合う「蔵のまち」須坂

### 門前まち花遊歩

配布された「ランチマップ」を参考に昼食を済ませた参加者が三々五々TOiGO広場にやってきてNUPRI受付を行います。**13:30**「門前まち花遊歩」出発式、**13:45**石畳の表参道を本物の牛に引かれて大勢の着物姿の女性たちが歩み始めました。(善光寺聖役:加藤久雄長野市長、北村正博長野商工会議所会頭、市村次夫NUPRI副理事長/進行:鈴木隆治NUPRI事務局次長)

15回目を迎えた花回廊はハンギング、農業高校生によるタペストリーガーデン、花キャンパス…と花々があふれんばかり。その善光寺表参道を、黒牛と紅白の綱に引かれた和装の行列が屋台テントと人の波をかき分けるように進みます。「牛にひかれて善光寺参り」の故事にちなむ花遊歩に欠かすことのできない牛さん、今年も千曲市から来てくれましたが世代交代し、名は松。大河ドラマ「真田丸」主人公のお姉さんにあやかって名付けられたそうです。観客か



ら注目を集め、牛も参加者も緊張気味です。今回の参加者には小学生の男の子や女の子、小さなお子さんをベビーカーに乗せて参加して下さった方もいて世代もさまざま。沿道の観客から「着物を持っていても最近を着ることないわね」「(子どもの着物姿)可愛い!」等々の声が聞こえました。

強い日差しなれど強風で日傘がさせず自ずと牛歩になる行列は大門南交差点を渡り切ったところで一旦休憩。

冷えたお茶で喉を潤した後、再び「牛に引かれ」る一行は善光寺参りする人を見定める仁王様の門をくぐり、仲見世を抜け、山門前に到着。階段も周りもワンヤの人だかりのなか、清水光淳善光寺法務局長より答礼をいただき、善光寺参りを無事済ませることができました。(牛さんご苦労様!)

